No.386　令和３年８月30日

おおたこうれん

発行所
東京都大田区南蒲田1－20－20
電話(3737)0797・FAX(3737)0799
一般社団法人大田工業連合会
発行人　会長　舟久保利明
E-mail：office@ootakoren.com
ホームページ：https://ootakoren.com/
印刷所
東京都大田区中央8−5−1
電話(3752)3391
城南印刷工芸株式会社

東京パラ聖火、大田区の「種火」採火

平和を祈る〝愛し子の像〟の下で灯る

日本が史上最多のメダルを獲得した東京五輪の熱狂冷めやらぬまま、ついに8月24日に開会を迎えた東京２０２０パラリンピック。その聖火を構成する大田区の「種火」の採火が8月10日に平和の森公園で行われた。前号でも報じたように大田区では当会の青年部が採火器具の製作を担当している。この日は採火を行う松原忠義区長のほか、採火器製作に携わった青年部メンバーも出席。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から参加者はできるだけ最小限に絞り、事前にＰＣＲ検査を行った上で採火を行った。

東京２０２０パラリンピックの聖火は大会発祥の地であるイギリスのストーク・マンデビルで採火した種火と日本全国８８０の自治体から集められた種火を合わせて作られる。全国各地でユニークな方法による採火が行われる中、「ものづくりの町」大田区では青年部のメンバーを中心に「仲間回し」の力で採火器の製作に挑戦した。

青年部が担当した全体のデザインは大田区の紋章をベースにした唯一無二のもの。太陽光の熱を集めるステンレス製の凹面鏡はヘラ絞り加工で製作。そのほか、図面起こしや凹面鏡の鏡面仕上げ、土台やブラケットの製造、トーチの表面処理に組み合わせと完成までに計8社が携わった。

平和を祈念する『愛し子』の像が見守る中、正午から行われた採火では、まず初めに青年部の関英一氏から松原区長にトーチが手渡された。世界でひとつしかないトーチを手にした松原区長は「大田工連の皆さん、ありがとうございます。大田の技術を使って、素晴らしい採火器具ができました。こちらの凹面鏡を使って太陽光から火を採ります」と力強く宣言してトーチを凹面鏡の中心に降ろした。

この日は都心の気温が35度を越える炎天下。ただ、そんな絶好の日差しに恵まれていたとしても、しっかり火が起こせるかは緊張が走る場面である。トーチを持つ区長もそれを見守る関係者も額にじっとりと汗をかきながら、全員の視線が凹面鏡の一点に集中する。大田区の火よ、どうか起こってくれ…、そんな職人たちの願いに呼応するかの如く、開始から1分ほどしてトーチの先端に徐々に煙が立ち始め、やがてそこから火が起こった。光り輝く点火棒を高々と掲げる松原区長。その頭上では愛し子が我々を見下ろしている。ここに東京２０２０パラリンピック聖火における大田区の「種火」が誕生した。種火はランタンに移されると、再び松原区長の手に。ランタンを抱えた区長は「皆さん、本日はありがとうございました。この大田区の種火が、8月20日に全国から集められた火と一緒になり、パラリンピックの聖火として東京都を巡ります。そして8月24日のパラリンピック開会式でオリンピックスタジアムに灯されますので、選手の応援とともに、この聖火にも注目してください」と述べて締め括った。

無事に採火を終え、大役を果たした青年部メンバーも安堵の表情。地元ケーブルテレビ局から取材を受けた関氏は「実験では何度か点いていたものの、区長までお越しいただいているのに火が点かなったらどうなってしまうんだろうと本当に心配だった。しっかり火が点いてくれたので今は安心している」と本音を吐露。その上で参加してくれたメンバーに対しては「最初はこうした展開になるとは言わずに、ただ大田区からの頼みなのだと伝えただけで皆さん快く引き受けていただいた。結果的にこういう誇らしいものができたので本当に感謝している」と語り、ほぐれた表情を見せた。一方で、土台の製作に携わった尾熊稔文氏は「こうした機会はおそらく二度とないことなので携われて光栄だった」と感想を語り、「大田区の町工場には、いろいろな小さな工場の集まりでひとつの品物を作っていく流れがあるので、その流れでこういうものを作れたのが非常に良かった」と充実感あふれる言葉を述べた。なお、この採火の様子は大田区のホームページで見ることができる。

本紙が読者の手元に届くのは、まさに東京２０２０パラリンピックが佳境を迎えている頃だろう。無観客開催は残念だが、テレビ等にその聖火が映される時、燃え上がる炎の中に工業というフィールドでアスリートのように魂を燃やす、大田区の職人たちが起こした火が存在していることを感じて欲しい。がんばれ、ニッポン！

「愛し子」の像が見守る中で行われた「種火」の採火

トーチを凹面鏡の中に降ろし採火する

種火のランタンを手にする松原区長

新入社員セミナー開催

7月26日から28日にかけての3日間、大田区と当会が主催する「新入社員オンラインセミナー」が開催された。当初は5月に対面での開催が予定されていた本セミナーだが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う3度目の緊急事態宣言発出の影響により延期となっていた。この時期も4度目の緊急事態宣言が発出された最中ではあったが、セミナーを行う大田区産業プラザPiOと全受講生とをリモートで繋ぎ、接触を避ける形で開催。例年とは違う形式にはなったが、今年も継続して実施することができた。

オンライン開催にはなったが、今年も受講者の真剣な眼差しが感じられた

冒頭では当会の舟久保利明会長が開講の挨拶を行い、「今年はコロナ禍の影響でこうした形での開催になったのは至極残念だ。直接話を聞くのとは勝手が違うところがあるかもしれないが、しっかり耳を傾けて、これからの仕事に少しでも役立てるようがんばっていただきたい」とエール。7社13名の受講生を激励した。

今年も総合人材サービスの(株)アール&キャリア社から人材教育の専門家を招き、3日間にわたるセミナーを実施。社会人と学生の違いを認識し、「新入社員に必要なビジネスマナーの基本体得」と「『ものづくり』にたずさわる企業人としての『自覚と誇り』を醸成する」ことの2つをメインテーマに密度の濃いプログラムが展開された。受講生には約90ページ近いワークシートを事前に配布。PCの画面にも要点が映し出され、対面での開催と同様に理解が図れるよう工夫がなされた。具体的な内容を一部紹介すると一日目はまず初めに「学生と社会人との違い」や「CS(顧客満足)とは何か」「オフィスでのセキュリティマナー」といった社会人としての心構えの認識から始まり、論理ラインと感情ラインを意識した上手なコミュニケーションの取り方を実践的に学習。その上で挨拶の仕方、表情の作り方、見だしなみの心得というビジネスマナーの基本を習得した。2日目は正しい敬語の使い方を踏まえた上で電話応対や他社訪問、来客応対のマナーをケーススタディやグループワークを中心に会得。そして3日目はビジネス文書やビジネスメールの書き方やPDCAサイクルをはじめとする仕事の進め方について学んだ。受講者にとっては入社から3か月以上が経過したタイミングで、ビジネスマナーで疑問に思っていた部分を解消できる機会にもなったことだろう。

例年ならば対面で行うグループワークも、今回はリモートのブレイクアウトルーム機能を活用してオンライン上で実践。また、全体での発言の際は挙手ボタンを活用して積極性を促した。オンラインゆえの制約があったことは否めないが、その一方で、例年はホワイトボードを使うところをスライドで見せることでスピード感が増したり、時に映像を交えながら理解度を高めたりとオンラインならではのメリットも感じられた。また、講師も「対面のセミナーでは自分に関係のない場面で集中力を欠いている受講生の姿も見られるが、オンラインでは視線が常に画面上にあり、集中が維持できているのを感じた」と語り、教える側にとっても利点があったようだ。なお、来年1月には本セミナーの受講者を対象にしたフォローアップセミナーの開催を予定している。

『おおむすび』をご存知ですか？

©大田区

『おおむすび』とは、大田区内にある障がい者施設が連携して、施設利用者の工賃向上･社会参加を目指す取組みのことです。
具体的には、以下の活動等を行っています。

軽作業の受注

清掃、ポスティング、封入作業、シール貼り等の軽作業をお受けしています。
「こんな仕事はどうかな？」と思うこと、なんでもお気軽にお尋ねください。

お菓子・雑貨などの販売

各施設で製造している焼菓子や雑貨などの商品（自主生産品）を区施設（常時）・商業施設等（随時）で販売しています。

ご要望に応じて、箱詰め等のセット販売（※１）のご注文を受けており、大田区土産としてご利用いただいております。

焼菓子や雑貨以外にもパン・お弁当も製造しており、イベント等での出張販売も行っております。お気軽にご相談ください！

（※1）〔贈答用箱詰め等商品例〕
おおむすびデラックスセット（箱詰め）1,000 円・1,500 円・2,000 円等
おおむすびプチセット（かわいいラッピング）　300 円・500 円等
＊ご注文は、1 セットからお受けします。2 週間前までにご注文ください。

⇦
おおむすびプチセット

問い合わせ先

大田区生産活動支援施設連絡会
（おおむすび連絡会）
［事務局：志茂田福祉センター］
〒144−0056
東京都大田区西六郷1−4−27
☎　03-3734-0763
FAX 03-3734-0797
E-mail shinkama@city.ota.tokyo.jp

おおた生産連 HP

大田区 HP

⇨
おおむすび DX セット

【サイバーセキュリティ強化・特集連載・第1回】

検証実験の振り返りと今後の課題

～工和会・広瀬理事長と考える～

昨今、企業を狙ったサイバー犯罪を巡る報道が絶えない。外部からのサイバー攻撃は企業活動に大きな打撃を与え、取引先からの信頼までも奪っていく。そんな中で大田工業連合会では3年前から検証実験を行い、本年度のサイバーセキュリティ強化につなげてきた。今号からは実際に積極的な取組を行う会員企業の経営者らに登場いただき、実例を交えながらサイバーセキュリティ強化の意義を伝えていく。初回は当会の会員団体である工和会協同組合の理事長で、検証実験にも参加されてきた(株)伊和起ゲージの広瀬安宏社長に話を伺った。

―まず初めに、広瀬社長は当会の検証実験に参加されてきましたが、この3年間の取り組みにどんな印象を抱いていますか？

「多くの企業がまだサイバーセキュリティの必要性を感じていないというのが正直な印象で、積極的に取り組む企業とそうでない企業の間に大きな格差があります。工連でも対策に向けて活動してきましたが、その空気はあまり変わっていないと感じます」

話を伺った工和会の広瀬安宏理事長

―最近ではテレビや新聞でもサイバー攻撃のニュースが絶えない中、なぜサイバーセキュリティが浸透しないのでしょうか。

「身の周りに大きな不利益が出ていないので深く考えることがないからでしょう。工連の会員企業のように規模の小さな会社は、日々の受注や納品のことに必死でサイバーセキュリティにまで手が回らないということもあると思います。ウイルスの付いたメールがあっても(ブラウザ上などで)ブロックされるので『ウイルス付いてたよ』みたいな仲間内程度の話で済んでしまい、セキュリティソフトの導入程度に留まっていることが多いです」

―「興味がない経営者」の方々も多い中で、広瀬社長がサイバーセキュリティに意識を持ったきっかけは何だったのでしょう？

「当社は他社に先んじて比較的早い時期から自社ホームページを開設していました。その先行者利益もあって、大手企業を差し置いて検索順位の1ページ目にいたんです。それが5年ほど前にハッカーからウイルス感染させられ、検索サイトからスパムサイトと認識されてしまいました。ホームページの管理を頼んでいた会社から報告を受けた時には検索サイトからアクセスできない状態も起こっていました」

―実際に経営面にどのようなダメージがありましたか？

「ドメインを変えてページを作り直しましたが、検索順位が一気に下がってしまいました。一度スパムに認定されるとなかなか従来の形に戻りませんし、大企業は検索順位を上げる努力をしていますから。今は2ページあたりにいますが、もともとホームページからの流入が多かったので打撃は大きいです」

―小規模事業者がサイバーセキュリティに取り組む意義を広瀬社長はどのように考えますか。

「専門家の方と話した時に「ウチなんか盗られるものはないと思っていても自社の被害がお得意様に及んだらあなたの責任になりますよ」と言われました。何も対策をしていなければ、社外に対して過失が出てくる可能性があると。確かに工連の会員企業には大企業や省庁関係とも取引のある企業が多いですし、事業に直接関係なくても労務管理や税金の関係でネットワークに繋がる機会は増えていますから、今後は企業としての態度や責任も問われてくるのはないでしょうか」

―検証実験では複数のサイバー攻撃の脅威に対抗するUTM(統合脅威管理)の機器を無償で提供してきましたが、それも途中で外してしまう企業もありました。工連としても反省を感じる点ですが、実際に使用されてきた立場からすると、そこにはどんな課題があると思いますか。

「小規模事業者の場合、会社用のPCと私用のPCが同じというケースがあり、UTMを導入するとタバコやお酒などのサイトも遮断されたり、ネット利用が制限されてしまうのが大きいと感じます。そのあたりはセキュリティをメリットと感じるか、有害な可能性がある情報の遮断を不便に感じるかという認識の違いじゃないかと」

―サイバーセキュリティについて学びたいけれど、何から初めていいか分からないという経営者の方に何かアドバイスできることは？

「私自身も外部に任せたり工連の勉強会に参加する程度で、まだ積極的に学ぶというところには至っていませんが、被害が起これば経営者の責任だという自覚はあります。ただ、全部を自分でやろうと思うとパンクしてしまうので、工連などの団体に先導してもらい、そこに付いていく形が作れたらいいと思っています」

―工和会では「IT委員会」を設置して、独自のサイバーセキュリティ対策活動をされていますね。

「去年作ったばかりなのでまだ走り出しの段階ですが、ITの専門家を内部に入れてハード、ソフト両面におけるセキュリティ対策やオンライン会議のスキル向上などを図っていきたいと考えています」

―最後に大田工連の取り組みに期待されることがあれば教えてください。

「自動車保険も事故がなければ使うことがないのと同じように、サイバーセキュリティも事故が起こらないと重要さが分からないと思います。その上で『数は力』というように一人、二人でやるよりも十人とみんなでやった方が情報も入りやすいし、いろいろなメリットも出てきます。それに仲間同士で仕事をすることもありますから、一緒に大きな仕事をする時に全員が同じセキュリティ意識を持っていたら仕事を回しやすいです。だから、工連が中心となって積極的な啓蒙活動を行いつつ、良いモデルケースを作っていくことが大切だと思います」

―貴重なお話をありがとうございました。

大田工連会員企業におけるサイバー攻撃検知状況
調査期間：2021/5/1～7/31

	ネットワークの監視(UTM)		PC端末の監視
アラート種別	ウイルス遮断	不正アクセス遮断	ウイルス検知
検知数	39	16,149	1

事務局から
第11回

日々増加する新型コロナの感染者数に加えて不安定な気候もあり、8月は心配が絶えない一か月になりました。水害の被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

大田区でも一昨年の10月に台風19号による浸水被害が発生しました。区ではそうした経験も踏まえて、災害だけでなく新型コロナウイルス感染拡大の影響にも対応した「簡易版BCP（事業継続計画）シート」を作成しました。事業継続計画というとハードルが高そうですが、災害編と感染症編の2種類のシートがあり、それぞれA3版の用紙1枚に記入するだけの簡単なものです。当事務局より各団体事務局に会員企業様分の用紙をお送りしましたので、ぜひご活用ください。

また、5月号で青年部の松島委員長が述べていたSDGsへの取組みも動き出しました。節約・省エネ・研究開発・再利用など、各社が行うSDGs活動をPRしながら、経済と社会の持続可能性に資するような取り組みを考え、発展させていく事業を実施していきます。

コロナ禍で事務局もイベント等を制限せざるを得ない中にありますが、上記のような活動へのサポート等を通じて、皆様の事業に少しでも多く貢献してまいります。

《Report》

六郷BASE・開業プレイベント
起業家パネルトーク開催レポート

京急本線「六郷土手駅」から徒歩10分の場所に10月オープン予定の創業支援施設「六郷BASE」。同施設の開業プレイベントが7月16日にオンラインで開催された。ここでは当日の様子をレポートする。

前々号で5月に取材に訪れた際には、まだ建物のみの状態だった同施設。開業を10月に控えて設備も整いつつある中、この日は館内の見学ツアーとパネルトークを予定していたが、４度目の緊急事態宣言発令に伴い、オンライン配信によるパネルトークのみ開催されることになった。

「アイディアをカタチに！ 起業家パネルトーク」と題されたイベントには、ハタプロ・ロボティックスの伊澤諒太氏とひかり屋根の重永幸年氏がパネラーとして出席。大田区で起業を経験した二人が、大田区で起業するメリットについてトークセッションを行った。

法人のマーケティング支援用に開発され、医療界や高齢者の見守り支援にも用途を広げるAIロボット「ZUKKU」でサービス展開する伊澤氏と、太陽光パネルの出力を基に室内照度を予測し、照明器具の調光をセンサーレスで行う「ひかり屋根つなぐ」を主軸事業とする重永氏。まず初めに大田区での起業理由について聞かれた両者は「町工場が集積している地域ということもあったが、何よりも行政の方たちの熱意を感じ、一緒に何かを起こせると思った」（伊澤氏）、「広いスペースを探していた時に、大田区産業振興協会で運良くBICあさひを紹介してもらった。自宅からも近く、周りにベンダー加工や設計ができる場所があるのも魅力的だった」（重永氏）とそれぞれの経験を語った。続いて、区内企業との協業のメリットを尋ねられると、「弊社の場合は20社くらいの町工場とそれぞれの得意分野で協業させてもらっている。他の地域だとそれくらいの数の工場とやりとりするとコミュニケーション等の面で非常に大変だが、大田区の場合は工場同士の仲が良いこともあってすり合わせがしやすい。試作開発のフェーズで新しいものを作る時はいかにスピーディーに回していくかが重要なので、とてもいい環境だ」と伊澤氏が回答した。

その後も重永氏が自社製品のパーツを見せながらものづくりの面白さを伝えるなど、楽しく実になるトークが続く。そして、これから先、ものづくりの町・大田区で創業したいという方が集まったり、既存のものづくり企業が新しいサービスや商品を開発していくには何が必要かということに話が及ぶと、伊澤氏は「大田区には技術力のある町工場が多いので、今後、海外等に自社製品を売っていくならば、デザイン面やマーケティング面が得意な人を入れたり、そういう分野が得意なところと組んで、自分たちがこれまでやってきたこととは違う第二創業のような気持ちを持つことも大切になると思う」と持論を述べた。そのほかにも、起業を果たせた原動力、モチベーション維持の方法、事業開発のコツなど多岐に渡る話が展開。大田区で起業したい、自分のアイディアをカタチにしたいと考える参加者にとって貴重な時間となった。

シェアオフィスや個室型オフィスを擁する六郷BASEでは随時入居相談を行なっている。興味のある方は同施設の公式ホームページ（https://rokugobase.com）から問い合わせてみてほしい。

世界に向けてサービスを展開する伊澤氏と、60代後半で起業した重永氏。対照的な経歴を持つ登壇者に対し、質疑応答でもオンラインの視聴者から盛んな質問があった

【代表者変更のお知らせ】

当会正会員団体、一般社団法人仲池上商工業振興会代表理事は、6月25日付けで上島秀美氏に代わり峯滋氏が就任いたしました。

おおた少年少女発明クラブへの協賛金（寄付金）ご協力のお願い！

大田区内の子どもたちに技術や科学に対する興味、関心を喚起する場を提供し、大田区が誇るものづくりの楽しさを体験することによって、創造性豊かな人材育成を進めることを目的に、「おおた少年少女発明クラブ」を運営しています。

〔おおた少年少女発明クラブ詳細〕

対　　象　　区内在住・在学の小学４～６年生

活動期間　　毎年４月～翌年３月

※募集は毎年３月初旬予定

事業内容　　ものづくりの楽しさを体験学習させる機会を継続的に提供し、技術や科学に対する興味・関心の喚起、子どもの創造性を伸ばすことで、将来の大田区のものづくりを支える人材育成に寄与することを目的としています。年間20回程、土曜日の午後に活動を行い、工場見学なども行います。

大田区産業振興協会 HP　公益財団法人大田区産業振興協会＞ 人財の育成・確保＞おおた少年少女発明クラブ

☞https://www.pio-ota.jp/human-resources/hatsumei-club.html

※ おおた少年少女発明クラブでは、区内企業様にものづくりの未来を担う子どもたちの活動へのご支援をお願いしています。

詳しくは下記問い合わせ先までご連絡ください。

寄付金は所得税法上の寄付金控除、または法人税上の損金算入額の特例が受けられます。

お問い合わせ
お申し込み

公益財団法人大田区産業振興協会（地域型産業推進課 経営サポート担当）

☎ 03-3733-6144
（FAX 03-3733-6459）

受付時間
8：30～17：15
月～金曜日
（休祝日・年末年始を除く）

〒144-0035　東京都大田区南蒲田1丁目20-20　大田区産業プラザ